JUMP COMICS 🦃



Volume 8:

The Yin/Zhou Revolution

















Tis' so warm in here. Oh Yeah Merry Christmas and Happy Chanukah to Everybody!

-am I foraetina anythina else? *Rattikarl throws a bottle at Il-Palazza* Oh yeah! As an added bonus, to tickle everyone silly. We'd like to announce that This Volume is the first voulme in Houshin that has never been scanlated to this date! Gahh... I'm so happy to be a part of this

> wonderful event. ~_~ *Snoopy Cracks Whip~* O Nooo...

I'm working... I'm working...

-Il Palazza

S. Please watch Menchie and II-P-kun's Grand Ecchi Battle for the title of Hentai-Sama!

封神演義

第8部 殷周易姓革命

CONTENTS

Mes	Att a	第	201	第	2501	2001	Sec.	250
第69回	第68 回電	67 □[::	第66回	65 回恋	第 64 回恋	第 63 回	第562回言	第61回
上行孫・夜ば	金鰲島内部~蟬玉のダディ	殷周易姓革命	鳥。	SPY大作戦!!	魔家四将⑩	魔家四将⑨	魔家四将8-	魔家四将了
夜ばいをする	-蟬玉のダデ	周易姓革命START!		!!! [*]	魔家四将 封神台へ	魔家四将・原形ヴァージ四体合体	大化再戦!!	人化再登場!!!
	1	$^{\prime}$			作	アージ		

167 147 127 107 87 67



Maka Yonshou -Tenka Returns!!!

別に読まなくてもいいけど ページがあいたので



だぶん



△『蕙い笛し笑い』とゆうものは、する光としない光がいるようですね。 △僕はする。

△それも頻繁に。

△そればかりか『想像笑い』をもします。

△この「規模笑い」とゆうものは薩崎が勝手に命名したもので(またかよ)、 養いて字の茹く、顔の中でアホなことを考えては一人でウフフと笑う 現象のことです。

△··········なんてことを考えては[△]··人、ウフフと笑みをこぼすのでありました。

△徳に『慧い出しムカツキ』をする父もいるそうですが、蕭崎にはそれは ないですね。





































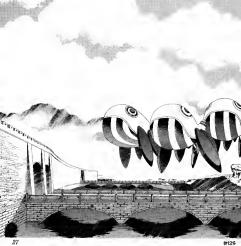


Smoopy/Cool Scanner: Rokibi Translator: Smoopy Esiter: 11-Palazza





Maka Yonshou (8) -Tenka's Rematch!!!-







封神演義[3]































.....OYAP TAIKOU-BOU, I'M NOT SURE HOW THE TENKA YOU KNOW ACTS



BUT THE TENKA I KNOW IS A WARRIOR WITH UNMATCHED PRIDE AND SPIRIT!!























41.8











Story 63:

Maka Yonshou (9)

-The Four Unite ☆
The Maka Yonshou's
Original Form!!!!-













5.





























SmoopyCool Kokibi -Da Scamer Snoopy -Da Transktor 11-P kun -Da Esitor



Story 64:

Maka Yonshou 10 -Maka Yonshou, to the Houshindai-































































SMOOPPY Cool
Seemen Relithi
Translator Smooppy
Bettor II-Palkessa







別に読まなくてもいいけど ページがあいたので

肽

だぶん

文V

△先日、東京の自黒にある「寄生虫館」に行ってきた。

△寄生園に、特別な憩い入れがあるとか、色質なところが好きだとかゆうわけではない。どちらかとゆうと嫌いなほうかもしれない。でも僕は大小さまざまな毒生鬼を展示しているその場所に、ずっと行ってみたかった。僕の個人的無意識がそうさせたのかもしれない。

△そこに着くまでには結構な時間がかかる。

△自宅から電車でおよそ45分で自黒に着き、さらに15分ほど上下する道を歩か なければいけない。

△僕は地図を片手に駅からの道を確かめながら、そこに向かった。

△おたやかに上下にうねる被議を、何も考えずにのこのこ美いていると、この 指の建物がどれも似たようなものであることに気づく。日本中、どこにで追 こんな感じの荷はあるだろう。誰かが設計して誰かが材料を選び、ここに造 った病。たが、よおく注意して目をこらしてみると、その中に"寄生虫蛇」 を発見することができる。それは建物に埋もれていて、不注意な人ならばお そらく見造してしまうかもしれない。たけど注意深く探せはその見庸な建物 は誰でも見つけることができるし、誰でも津思い

△僕はドキドキしながら中に足を踏み入れてみる。

△ 単には完潔が何人かいて、それぞれがガラスケースの単に入れられている審 生虫を見ていた。彼らは高級単であったり、それであったり、さまざまだ。 そして本当に異性に、まるで参生地と同代してしまったかのように、自を近づけて、じっと凝視している。僕は少し稀くなったが、すぐに見慣れてしまい、2階によった。(このビルの1階と2階が展示変なのだ)もちろん2階によった。(このビルの1階と2階が展示変なのだ)もちろん2階によった。(このビルの1階と2階が展示変なのだ)もちろん2階によった。(本)はいたのはもはや後らではなく、後うの裏にある消防隊が持っているホースのようなもの……『寄生虫館』の表演部にあるもの、それはほんとうに原始的な、きしめんのような、ものすごく巨大な裂頭条虫だった。

△そのまわりには難もいなかったので、彼は思うぞんぶんそれを眺めることが できた。でも英純に見ようと思えば思うほど、それは形を失くしてゆき、つ いには消えてしまう。彼は少し悲しくなって、そこを出た。そして1時間を かけて家に帰った。

△この器は僕の個人的な無視であり、現実はそうでないかもしれないけど、「寄 生茧館」は実在します。一度足を運んでみてはいかがでしょうか。





















AND AT THAT TIME, TAIKOUBOU WAS...





















HER











NOW THAT I THINK ABOUT IT. SHUUKOUTAN-SAN SAID SOMETHING ABOUT PEACHES MISSING FROM THE SUPPLY SHEDS...

















SWOOPY COO! Scanner Roldbi Translators Snoopy Bottors 11-Palacea san



























封神演義□











TOMORROW AT HIGH NOON IN THE SQUARE AT THE CENTER OF HOUYUIL IF YOU WIN, THEN I WILL ALLOW YOU TO CONTINUE YOUR SPYING

CONTINUE YOUR SPYING
WITHOUT REPERCUISION. IF I
WIN, THEN YOU ARE TO LEAVE
IMMEDIATELY!!

LETTER OF CHALLENGE

SPY. THE TIME HAS COME THAT WE DECIDE THIS ONCE AND FOR ALL.





























The Yin-Zhou Revolution Begins!















封神演義日 ONLY YOU, HUH Vell, regard-Less, the Only Sennin WE REALLY





WORLD!











YOU MUST BE CAREFUL NOT TO MAKE ANY MISTAKES!



PREPARE YOUR-SELF, BUOU, THERE ARE SO,000 CITIZENS WAITING BEHIND THESE DOORS



ALSO, BE SURE TO SPEAK INTO THIS





































封神演義[3]







Inside Kingou Island ~Sengyoku's Daddy



SMOTPY (COO) =
common buy Robbb
translates buy Smorpy
Estima buy Helland





























































WHERE IT'S OK. I HAVE ALL MY POOVI-SIONS SET!

ARE YOU HEADING ON THAT KITE?



























BUT YOU DID A PRETTY BAD THING TO HER...













封神演義3







185 ②殷周易姓革命(完)







持漢義 をマンガ化する点で り過ぎないキャラに設定しま



黄飛虎はなぜ朝歌から離れたり





関仲はなぜ 脱から

離れない!? 前位には施成という ライバルがいた。丼 に限の外間になるか 発出は正の記となり 子を残して御書に始 た。策氏の子は、 実代の主となり、

次代の王となり、 以来、婦婦は趙王 家の教養係として

仕える間を決めた。 新宝も世界が育てた宝の一人。たとえ 類表の利用が見得てようと、誰代の主の妻での妻である妻がは他用した絵を見遍れないが

九畫

の四型

●全体前からお前され た便能・耐天教主から の伝書を配辞に伝え この数とする場合と 屋存を外数させる。 倉庫 そうだが、 約元 無物とよ 回算の努力はあるようだ。

趙公明國 **東京 商公明な封神リストの上位に名を** | 歯むる肉味人物しゃ れると落ないぞ/

●名集前の包入たち。 資 りでいうところの十二世と 回栖かり 神天教主の他の

異真のために

重和五文如女

関仲のために戦う

全世別被内の九年時に全む4人の値士。 屋

件とは使から一種に関ってきた件であり、

世間度が摂取に向かうのを食い止めるた め、太公望たちと聞った。ケタ外れの戦闘 力を持つ戦しの専門権士で、頑宝には順何 と一般に取己立続は不能ったこともある。

さいつもコインも、ケタ外れの呼吸ができる。 をいつもコインも、ケタ外れの呼吸力ではあった。 大公望たちとは、近々、 再動の可能性も 日

被罪を出さな

いためにも、次に載う

選する。

より関係をバックアップ/

●原の水料(開始) あたる大幅人。 金属島の大本 にして、食業事故 名だ/ 打削・

**** 中の油土 MINERC 書って加工製に仕えてみた 打倒・最をめざる前に立ち 向かうか、一方で、利王を あやつり、程を開催させる 知己とも取りしている。京 常観を用いて、一方的 **に関係打ちマネモ、様大仏 新聞力の持ち主だ**が

18 成方だったら心臓 いが一脚違にとっ て書大の機能だち

■離中の前下。多代な前後の 体を供づかう。細土なのだが、 現在のところは解析を中で いた事情を抱をしていない 5 A.

R.t.

◆機能に送りこまれた(自務) 事が女スパイ。 ベラベラとよくしゃべるし、自立ちたかり **値たし、なんで制作がスパイに転用したん** だかよくわかんないが、大公園との程序に 終って、めてたく(?)前の公園スパイに。

-15. よく見るとかわ WILLEAM 7

■308人以上もの的人・線士を終

ETOUR, METEORPE

かけて完成させた「資金の後」

て、対主をあやつり、前等の確

カモドに入れた。 終世の異数を

何るか、性格は無否。 太公園は

トの命士で、新聞能力を置い、

本名前作権人物: 変化の前で

他けるかには ン:改获度 まままま

催しいのて

糖の歯医の解説でん

担当・S氏の 封神。製作秘話 Part2 ついて…本はおいても前分した

うに、97年の豆、蘇菔先生は(ようやく)中 ||旧材旅行を実行出来ました。見述され かちですが、背景・屋橋の線は実在する 史別の資料をかなり参考にしています。 国の旅行では新たな行利の購入と共 **相当の写真を探りました。気がつくと記** 念撮影的写真は「校もなかったのです。

仙人(道士)には入繭 2種類あるって本当? 本当に 戸藤原本りっか

意 人能じゃなくても、デ が以上の値、月白を浴びれ は、影響や値でも加入にな れるよか 増加も人類以外から過土 になりっか 取締や続は大切にねっか (開催者・確保さん)

ラム無りで的破に 攻撃をはね返す室 も配を切り催く 間・結光解を持つ 神経系の攻撃を終 SOUTH - BREE が 東西の収集に、 果とするが、 整理 一度は天化石・輸光線を構立れか HALKERONE 練ったのたが・。 D. BOXONISC.

この記事は、瀕刑少年ジャンス革成9年50号に掲載されたものです。

